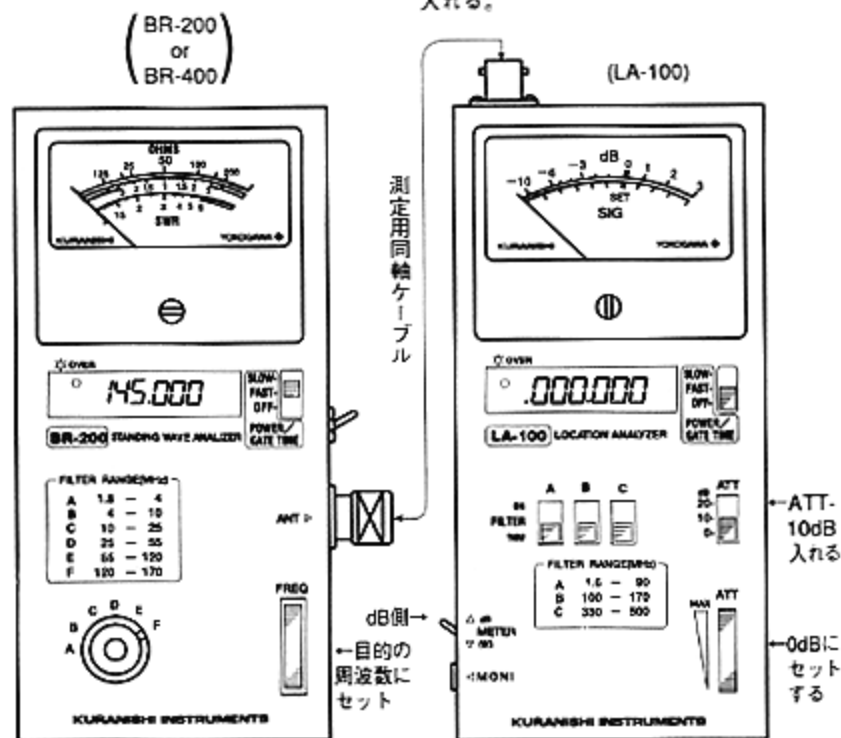


★BR-200、BR-400を御愛用の方はLA-100の基準信号源として使用できます。

- BR-200の信号出力は ± 0 dBm
- BR-400の信号出力は ± 2 dBm

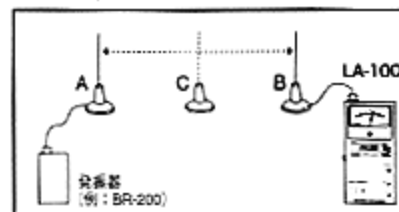
BR-200の出力を基準とし0dBにセットする
又、BR-400は ± 2 dB点にセットすればよい。
-10dBmを0dBにセットするためATT10dB
入れる。



- 信号強度計（非定量）としての使い方
不特定小電力発振器などの信号強度の比較や、発見、電波雑音の発生源の特定などの時は⑨のメーター感度切替スイッチをSIG側にして測定します。
この時メーター感度が約10dBアップされ高感度となります。
- 信号強度計として使用の注意点
本機に付属アンテナを接続して動作させる（フィルターがOFF時）、場所によってはTV、ラジオ、無線局、携帯電話、マイクロ波回線などの電波によりメーターが振れて何を測っているのかわからなくなります。そんな時はアンテナと本機の間目目的周波数専用フィルターを入れるか⑧のセットボリュームでメーターが振れない点まで感度を下げて御使用下さい。

(6)

LA-100参考使用例



アンテナの相対利得の測定

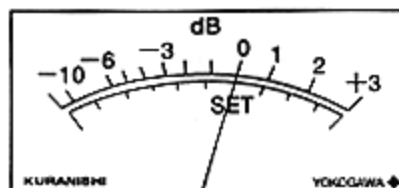
A点、B点のアンテナを $1/4\lambda$ アンテナにして、LA-100のメーターを0dBに設定する。

(1) A点のアンテナを $5/8\lambda$ 、 $1/2\lambda$ のアンテナに換えたときのメーターの振れを測定する。

アンテナの送信効率が判る。

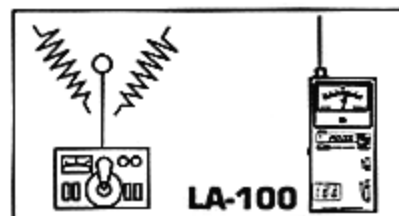
(2) B点のアンテナを換えてみれば、受信効率が判る。

(3) C点(A点とB点の間)に非接続の $1/4\lambda$ アンテナを入れて位置を動かせば、導波器の原理が判る。



μ W級の電力測定

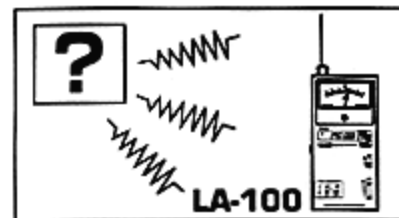
スルー状態でSGを入力して、0dB点に任意の入力として-10dBm ($100\mu\text{W}/103\text{dB}\mu$)を設定すれば絶対値測定ができます。



RFリモコン、ラジコンの出力比較

プロボの出力比較が周波数直読ができます。内蔵電池の電圧低下による出力低下の確認が出来るため、常時最適な出力でコントロールすることができます。

⑩2波、3波が同時に受信されると、周波数カウンタが不安定となります。



不特定の発振機の探査

マルチバンドのフォックスハンティングができます。内蔵のフィルターを活用すれば目的バンドの効率アップができます。

注意

測定する信号がデジタル信号などで周波数拡散されている場合、周波数カウンタが不安定となり周波数計測ができない場合がありますので、ご注意下さい。
信号強度の測定には影響ありません。

(7)